

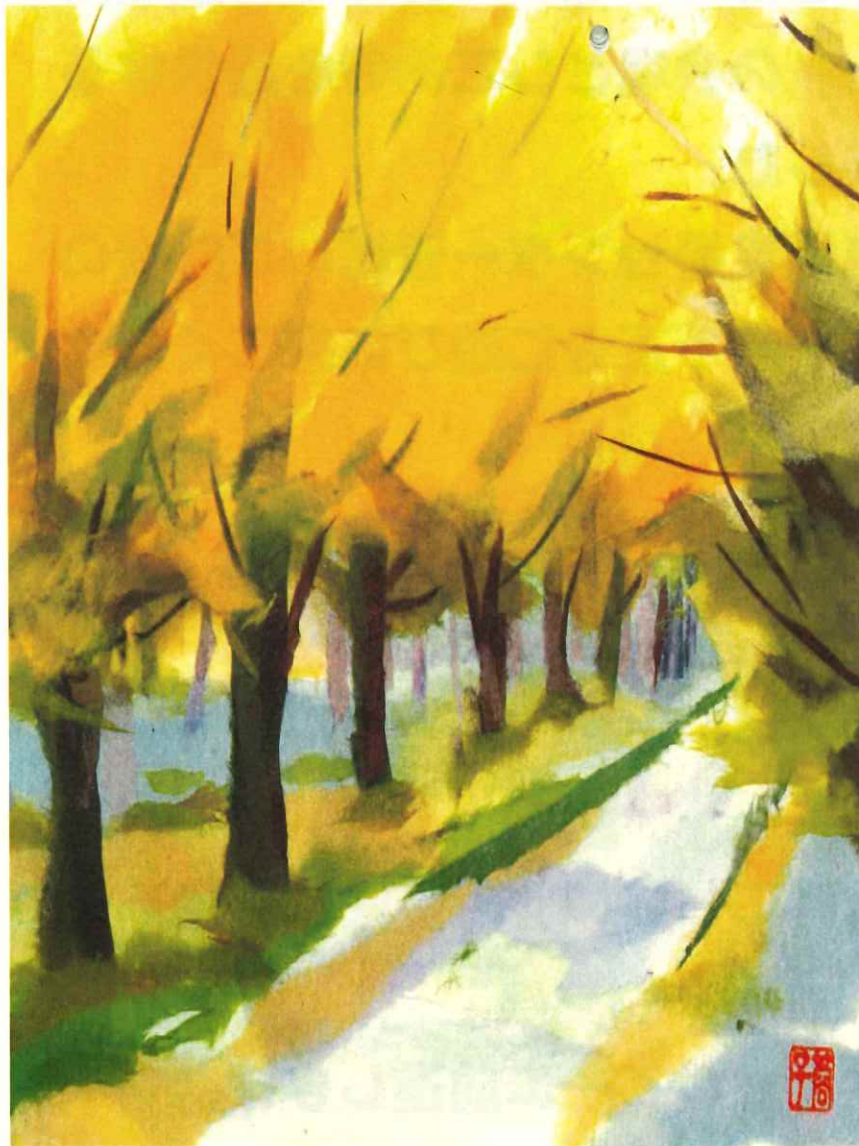


SENSHOJI  
2021 YUKARI NEWSLETTER  
since 1994

ゆかり通信  
VOL. 286  
令和3年11月

北海道千歳市清水町1-14 鶴竇山 千正寺  
TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883  
ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2021年千正寺カレンダー 11月の言葉



人は去っても、  
拝む掌の中に帰ってくる。  
(中西智海氏)

今月の言葉は中西智海という浄土真宗本願寺派の和上さまが残された詩です。

人は去ってもその人のほほえみは去らない  
人は去ってもその人のことばは去らない  
人は去ってもその人のぬくもりは去らない  
人は去っても拝む掌(て)の中に帰ってくる

『ひととき 私をささえる言葉』中西智海氏

大切な人との別れは、何よりも寂しいことでもあります。私も頭では分かっていたつもりでありましたが、実際に自分も誰よりも身近だった母との別れを経験してから「ああ、こういうことだったのか」と痛感いたしました。

たとえば、その日知り合いに聞いた話題を母に「近所の〇〇さんが△△なんだって」と報告しようと思った瞬間(ああ、母さんもういないんだ・・・)という事に気づいたり、私達の住んでいる北海道は毎年冬になると雪が降り積もりますが、いつもなら玄関につづく道筋だけはどんなに大雪が降ろうとも必ず母があけてくれていました。

しかし、仕事が終わりと、家に帰ると玄関は降り積もった雪のまま。「ああ、今日はしてくれてないんだ。」とちょっと面倒な気持ちで雪をかきわけ家に入ると、電気もついていなく冷え切った部屋のまま。

今まではそんなことはなかった状況を目の当たりにして、(ああ、俺一人なんだ・・・)とあらためて寂しさを感じたりするようになりました。

そして、そんな寂しさを感じた時にこそ、私は浄土真宗の教えにあって良かったなとも思うのです。

お念仏に生きる者にとっては、死は永遠の別れではありません。

亡き人は、阿弥陀さまのはたらきによって、浄土に生まれ、仏さまとなり、今度はこの世に還ってきて、私たちに真実に導くはたらきをしてくださる方となります。

手を合わすところに、亡き人と会える世界があるのです。

(文：行武秀明法務員)